

2017 アイアンマン 70.3 ワールドチャンピオンシップ参戦記

宿院 雅広

3月の台湾ではエイジ2位のため、スロットを獲得できず、急遽5月のベトナムはダナンの大会に出ることに。一緒に行こうと約束をしたトシの手前、何としてでもスロットを！レース中にアクシデントがあったものの幸運にもエイジ優勝してスロットを獲得し、ホッと胸をなでおろしました。去年のオーストラリアに引き続きチャンピオンシップに参戦です。



今回の目標は「完全燃焼」すること。レースに出るからには順位や記録はついて回りますが、それはこの次としました。

それは去年のチャンピオンシップでは出ることに満足して完全にお祭り気分参戦し、大いに後悔したためです。

バイクでは周りのすさまじいスピードに翻弄され、途中で気持ちが切れてへたれ、ランでは歩いたり走ったりの繰り返し。いくら楽しみながらのレースとはいえ、終わってみれば不完全燃焼で散々な結果となりました。



そこで今年は持っている力をすべて出し尽くして「完全燃焼」することを目標にしたわけです。ではレポート！といきたいところですが、その前にまずはレース前から。

[9月6日(水)、7日(木)]

6日のお昼に関空を出発して仁川、アトランタを經由してチャタヌーガに着いたのが、現地時間の6日の真夜中。約24時間かかりましたが、映画を4本見てそんなに苦もなく割と快適に過ごせました。ただ、アトランタからの飛行機が小さかったため、バイクが置き去りにされたのは少々焦りました。が、7日の早朝にホテルに届いたため一安心。かえって運ぶ手間が省けたってことでラッキー！

さっそくバイクを組み立てアイアンマンビレッジへ。受付を済ませた後は買い物です。んも一、ほしいものがいっぱい。1年に1度の大判振る舞いです。財布の紐は緩みっぱなしでした。

競技説明会のあとは、パレードです。およそ100か国から4,000人の選手が来ていますので、参加しているのはその一部とはいえ壮観です。この場所にいる喜びをヒシヒシと感じました。

[9月8日(金)]

ホテルの朝食をたらふく食べて再びビレッジへ。またまた買い物の後、バイクでランコースの下見へ。スタートしてまずは200mの登り坂が腰にきそうです。そのあとは川沿いの散策路を走るのですが、これがまた雰囲気ばっちり。その他、アップダウンのきつい住宅街を走ったり、テネシー川にかかる橋を渡ったりと変化に富んでこれは楽しめそうとテンションが上がります。

逆にテンションが下がったのがスイムコース。テネシー川を泳ぐといえば、聞こえはいいのですが、泳いでみると実際はかなり濁った水で自分の手も足も見えないくらい。ただ味も匂いもしなかったのは救いでした。水温は高く、ウェットスーツは禁止の可能性があるそうな(ノド)あーめっちゃ不利だあ。

ホテルに帰ってプールでバドワイザー片手に乾杯！至福のひとつときです。

[9月9日(土)]

今日は女子のレースデイ。ホテルの前がバイクコースなので、プロの走りを観察。なんというスピードでしょう。体を見ても女子とは思えません。軽く40kmを超えて巡行していました。

その後、バイク、バイク用具、ラン用具をトランジションエリアに預けに出かけ、のんびり過ごします。

さあ明日はレース！ドキドキワクワクが止まりません。で、例によってプールサイドでかんぱーい(笑)っておいおい、今日は禁酒するんじゃないのかな？

[9月10日(日)]

待ちに待った日がやってきました。スタートは8時52分。8時にスタートするトシと一緒に6時にホテルを出て会場へ。たくさんの方が集まっています。それだけでもう興奮状態です。

○スイム 1.9 km

ウェットスーツ許可はめっちゃうれしかった。約10人が順次ローリングスタートで頭から飛び込む！でもお腹と胸周りの締め付けが苦しいので、過呼吸にならないようにゆっくりスタート。やや川の流れに押され、蛇行している感じですが、バトルもなく300mを通過。そのあとは逆光で何も見えず、ただ人の流れに乗るだけの展開に。ゆっくり大きく泳ぐことを心がけつつも自分の中では結構追い込みました。伏見港でのスイム練習会中にひらめいたことをいくつも試しながら。こりゃなかなかいいタイムだぞっと思ってフィニッシュして時計を見ると36分。ありやりや、めっちゃおそっ！(笑)

バイクラックに駆け込む前にボランティアさんがウェットスーツを脱がしてくれたのはとっても助かりました。



○バイク 90 km

最初の5kmは平地で、そこから10kmの登りが続きます。最初の登りはツール・ド・フランスばりに応援者が道路の両脇でカウベルを鳴らす。その後は静原から花背峠まで8km登りさらにアップダウンが続く感じ。そこを後からスタートした若い選手がゴリゴリとペダルを回してものすごい勢いで登っていきます。

40kmまでアップダウンが続くのですが、抜かされるわ抜かされるわ。それもありえへんスピードで。2,3回どんなスピードなのか体験してみたくて後ろにピタッとついてみたのですが、無理無理。ドラフティングゾーンに入っても10秒も持ちません。あっドラフティングするつもりは全くないので誤解しないでくださいね。しかしこの速さの違いは、筋肉？DNA？練習の量？質？全部？が違うから？



それでも去年よりは気持ちも力もアップしていると感じているので、ヘタレそうになったら「根性、根性」「気合いだ、気合いだ」と叫びながらありったけの力で漕ぎます。ランの力を残しておこうなんて全く考えずにひたすら漕ぎ続けます。ここで尽き果てても構わないってくらいの気持ちで。

40 kmを過ぎて長い下り坂。70 km/h 近く出ているのに横から DH バーを持ったままの選手が抜いていきます。ひゃー恐ろしい！と思ったらその選手をさらに抜かしていく選手が！しかもバイクの走行車線を車が走っている！ありえへん瞬間でした。私は怖くなってスピードを 50 km/h 台に落とすくらいです。

70 km過ぎて後ろから「宿院さん」と声をかけられびっくり。それは3月の台湾で優勝してスロットを獲得された森本さん。パレードの時にお近づきになり、スイム前に握手をして一緒にスタートした同士です。ずっと抜かされたのですが、放されないように食らいつきます。やや走って今度は私が追い抜きます。そしてまた森本さんに抜かされる。お互いが抜かず瞬間に声をかけてニコッと笑う…なんてことを繰り返してバイクフィニッシュ。

○ラン 21.1 km

スタートしてすぐに左腰が痛くなり、最初の長い登りで腰を抑えながら今にも止まりそうなスピードに。平地になっても走れずキロ6分がやっとです。やばい、バイクで攻めすぎて腰を傷めたか！

「歩きたい、でもここで歩いたらこのあともずっとその繰り返しや！」

「でもこれは痛すぎる、到底このまま最後まで走れるとは思えん！」

とネガティブになるたびに、

「いやいや、ゆっくりでも走っていればゴールは近づく！」

「完全燃焼するのが目標やる！」

と自分を奮い立たせ、痛くても我慢して走ります。

3 km過ぎのエイドで氷を背中から入れ、腰の位置にキープしてようやく痛みが和らぎだし、キロ5分ちょっとで走れるように。

とそのとき、森本さんが声をかけながらすーっと抜いていく。

「やっと追いつきました！」

軽快に走っていきます。

「ダメや、あの速さでは走れん」

と思いつつも、何とか必死に離れないようにまたもや食らいつく。

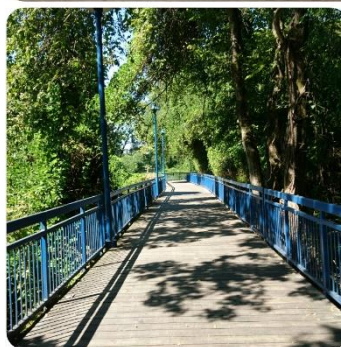
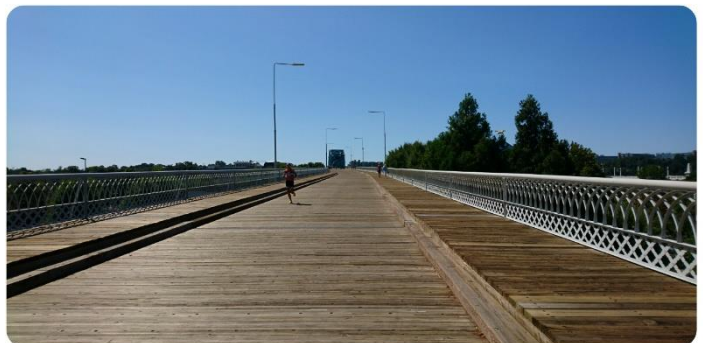
7 kmまで背中を追いかけ、ようやくいつものペースで走れるようになってきたところで森本さんを抜く。が、すぐにまた抜き返される。そのあとは登りで抜き、下りで抜かされるの繰り返しでお互いすれ違いざまに苦笑するも、ライバルとこんなところで順位や記録にこだわらずに競い合えるなんてなんて幸せなんだとジーンときました。このままの展開で進んだなら、最後は手つなぎフィニッシュでもしようかと思うくらいでした。途中トシとすれ違いお互い声を掛け合い気合いを入れます。

14 kmまで抜きつ抜かれつと同じ状態が続き、そのあとは完全燃焼するためにペースアップ。キロ4分半を刻みます。心臓がバクバクします。汗が半端なく出ます。ついでに鼻水も(笑)

世界一長い歩道橋を駆け抜けラストスパート。誰を抜くでもなく、誰と競争するでもなく、ただただ全力かつ笑顔でゲートに駆け込む。そしてフィニッシュ！これが俺のトライアスロンだ！

持っている力をすべて出し切って「完全燃焼」しました！

最高の瞬間でした！



[9月11日(月)]

レース疲れはあるものの、せっかくなのでバイクコースの10km地点にあるルックアウトマウンテンまでバイクライド。小雨の中少々震えながらでしたが、昨日ここを走ったんだなあと思うと感慨深く、もう来ることはないよなとしっかり目に焼き付けておきました。

テネシー水族館も見学し、導線のうまさと展示の巧みさに感心。ちょっとだけお仕事気分になりました。

天気がよければテネシー川沿いを散策したり、バイクで遠出をしたりしてチャタヌーガを満喫したい思いになりました。

人口20万人ほどの小さい街ですが、とってもきれいで、アメリカで一番住みやすい街と言われているのもうなずけます。でも他のアメリカの都市はほとんど知りませんが(笑)



[9月12日(火)]

ハリケーンが近づいてきているため飛行機が飛ぶか飛ばないかで焦りまくりながらも、何とか出発。24時間かけて関空に到着しすべて終了！

○レースを終えて

国内のレースでは常にタイムや順位、さらには他人の成績が気になります。自分を高めるためにそれは当然必要なことなのですが、チャンピオンシップにはそれがありません。と勝手に今思っているだけです。それは順位やタイムを求めても到底かなわないからというのがありますが、そこに「出場すること」と「完全燃焼すること」に価値を見つけたからです。

毎年場所が変わるのも旅の楽しみの一つと考え、まだしばらくはこの世界に

挑戦し続けようと思っています。来年は南アフリカです！里帰りするんかと言われてますが、今度は記録や順位にもこだわってみたいなど。でもまずはスロットを獲得するところから再び挑戦です。



遠く日本から応援をしてくださったみなさん、ありがとうございました。しつこいFBの更新にも関わらず暖かく？接していただきとても力になりました。

現地では、きーさん、まこさん、いろいろと気を使ってくださりありがとうございました。

お近づきになった森本さんをはじめ、ご一緒しましたみなさん、ありがとうございました。

大会を支えてくれたボランティアさんも素晴らしかったです。ありがとうございました。

そして忘れてはいけないのがトシ。ともに過ごした8日間は言葉では言い表せないくらい充実したものでした。18歳も離れていながらも、同士でありライバルであり友人である存在。トシの強烈なプレッシャー(笑)のおかげでベトナムでスロットを獲得し、この舞台に立つことができました。

お互い最高のレースになったよな、ありがとう！

またこの世界最高の舞台で共に楽しもう！

次の目標？それはトシに勝つこと！なんちゃって(笑)